

2023年度 総合型選抜Ⅱ 国際社会志向型

適性検査

I 次の英文を読んで、問いに答えなさい。

Margee Kerr says she has the [ア] job in the world. She studies fear for a living. She loves to scare herself. It is part of her research. Kerr is a sociologist from the University of Pittsburgh and has written a book. It's called *Scream: Chilling Adventures in the Science of Fear*. The book describes Kerr's adventures around the world. She has experienced extreme attractions from the tallest roller coasters in Japan to the scariest movies and haunted houses in the world.

Kerr also works at an attraction in Pittsburgh, USA. It's called 'ScareHouse'. She analyzes customer responses to help keep the fear levels [イ] right. She said, "We're trying to scare people in a way that's going to make them feel good." Kerr is interested in the idea that society usually thinks of "fear as a negative force. But there's another side to fear. It's fun and fulfilling." That's the perfect spot we try and find when we deliberately scare ourselves.

"When we know we're not really in any physical danger, we can enjoy the endorphins and the dopamine (chemicals in our bodies that make us feel good). That response is [ウ] to being really excited and happy," Kerr explained.

Her journey to write her book took her on many adventures. She said, "I was doing as many scary and thrilling things as I could. I look at it from the cultural viewpoint, the physical viewpoint, and the psychological viewpoint. Why do people enjoy doing scary things? Part of it is the natural excitement we feel." That comes from activating our ①'fight-or-flight' response (deciding whether to stay and fight or run away) in a safe environment.

Kerr says the trick is to figure out [エ] types of situations "trigger this response. What are people afraid of? What's going to help them feel that fear?" Sudden sounds, fast-moving objects, scary faces, etc. trigger the fight-or-flight response. They make people feel more scared. But importantly, they do it without putting people in real danger.

Kerr says her research can have an impact beyond theme parks and haunted houses. It can help people understand how ②to handle stress. "We have ③try to find the best ways to teach people how to experience their emotions in ways that are healthy and not damaging," she said.

(Adapted from Harpaz, Beth J. Why Halloween makes us scream. *Smithsonian TT Junior*, October 25, 2021.

<https://www.tweentribune.com/article/junior/why-halloween-makes-us-scream/>)

II 次の英文1～8の() 内に入る最も適切な語を、それぞれ選択肢①～④から一つ選び、[] に記入しなさい。

1. The baseball game was canceled because of the () rain.
① pale ② thick ③ heavy ④ loud
[]

2. We () our holiday at the seaside.
① paid ② spent ③ bought ④ passed
[]

3. The lights in the bathroom aren't ().
① working ② playing ③ lighting ④ running
[]

4. The teacher was () at work correcting the test.
① ready ② immediately ③ straight ④ rightly
[]

5. Everybody in my class likes skiing () than skating.
① even ② instead ③ better ④ higher
[]

6. We enjoyed () minute of the party.
① all ② most ③ nearly ④ every
[]

7. He is qualified () a nurse.
① to ② as ③ by ④ with
[]

8. I want you to go to Osaka at ().
① once ② twice ③ soon ④ now
[]

Ⅲ 次の1から8の英文の（ ）内の語を日本語の意味になるように並べかえ、文を完成させなさい。

1. 娘は言語や芸術よりも自然科学が好きです。

My (or, daughter, sciences, languages, prefers, to, art).

My_____.

2. 多くのアジア人の共通言語は英語だ。

The (Asians, is, English, language, of, common, many).

The_____.

3. 最近、職業を変えようと考えた。

I (changing, job, considered, my, recently).

I_____.

4. 私たちは約1時間半ゲームをした。

We (and, played, hour, a, games, about, half, an, for).

We_____.

5. 彼は昨年大学を卒業した。

He (from, year, college, graduated, last).

He_____.

6. 私達はこの夏に外国へ行くことを希望していた。

We (go, to, hoped, abroad, summer, this).

We _____.

7. トムは言語はもちろん、文学も研究している。

Tom (language, as, literature, well, as, studies).

Tom _____.

8. 彼はとても親切なので一緒に仕事をするのは楽しい。

He (and, is, friendly, with, very, I, working, enjoy, him).

He _____.



Ⅳ 次の文を読んで、問いに答えなさい。

とにかく我々は物事を対立で捉えざるをえませぬ⁽¹⁾。善と悪、安心と不安、健康と不健康、本質的なものと非本質的なもの（どうでもいいもの）……などなど。私たちが何かを決めるときは、何か二項対立を当てはめ、その「良い」方を選ぼうとするものです。

とはいえ、善と悪という対立で善を選ぶ、健康と不健康の対立で健康を選ぶのは当たり前だと思いかもかもしれません。これらはプラス／マイナスが常識的に明らかな対立ですが、もつと曖昧なものもあります。自然と文化、身体と精神のような二項対立は、どちらがプラスとも決められないでしょう。ですが、しばしば、どちらかに優位性を与える価値観が主張されます。どちらをとるかで主義が分かれるのです。（中略）

さて、たとえば、お昼にカツカレーを食べるかどうかが迷っているとしましょう。言うまでもなくカツカレーはひじょうに高カロリーです。カレーは脂質が多く、ほとんど脂の塊を食べているようなものです！ そのとき、カツカレーはうまいだろうなあというツボクな欲望をとるか、それともダイエットをとるか、のような二者択一が生じる。

背景には、痩せた体の方がよいか気にしないか、健康か不健康か、といった二項対立が走っています。欲望のままに生きると不健康になり、それは悪だが、我慢すれば健康になり、善である（話を簡単にするため、体型の問題は省略）。このように、何かを判断するときには、はつきり意識せずとも二項対立の計算をしているわけです。

悩んだ末、今日はカツカレーを食べることにする。しかも最近ではダイエットを意識していたのにそうしたとすると、むしろ不健康であつても欲望を、あるいは快樂をとる判断をしたことになります。よくあることです。人間はわかつていても正しさを維持して生きることができず、ときには良からぬことをしてしまうものです。

私たちは日常、必ずしも二項対立をゲンミツに運用していないというか、実にテキトーです。しかし、それは一貫性がなくてダメなのかというと、それだけではありません。もつと原理的な問題があるのです。そもそも、二項対立のどちらがプラスなのかは、（ X ）⁽²⁾。以上の場合なら、不健康が悪だと一概には言えないのです。長生きだけが人生ではない。不健康な生活になつてでも、太く短く生きるという人生だつて、なかなか世間は許そうとしないでしょうが、自由ではないでしょうか？

さらに言えば、どう生きるかを自分で勝手に決めてよいのか、自由はどこまで可能なのか、といった問題がここで生じるでしょう（たとえば、不健康にならないよう努めないのは、皆で分担する健康保険料を他人から多く「奪う」ことになるからダメだ、などと言う人も出てくる）。自由 vs. 社会への適応、自律 vs. 他律といった二項対立をどうするかで議論になる。

二項対立は、ある価値観を背景にすることで、一方がプラスで他方がマイナスになる。

もうひとつ、秩序と逸脱という例を考えてみましょう。

基本的に、秩序に対して逸脱はマイナスだと見なされる。ですが、私たちは羽目を外して朝まで飲んでしまったりすることがあります（今はコロナ禍で難しいですが）。そういうとき、すごく楽しくて、人間関係が深まったりすることがありますね。ですから、逸脱が一概に悪いとも言えない。では逸脱が犯罪的なものにまでなってしまうたらどうか。法との関係で逸脱がどこまで許容されるのか、何を犯罪として捉えるかということまで含めて考えると、その線引きは難しい問題になります。

このように、二項対立のプラス／マイナスは、あらかじめ絶対的なものとして決まっているわけではなく、ひじょうに厄介な線引きの問題を伴うのです。その線引きの揺らぎに注目していくのが脱構築の思考であると、まずは言えると思います。（中略）

秩序からの逸脱という、暴走する人を褒め称えているみたいに聞こえるかもしれませんが、ちよつとイメージを変えていただきたいのです。それは自分の秩序に従わない他者を迎え入れることを意味します。それにはトラブルがつきもので、人と人が傷つけ合うことがまったくないなんてことはありません。多かれ少なかれ、自分が乱される、あるいは自分が受動的な立場に置かれてしまうということにも人生の魅力はあるのです。

このことからして、すでに話は脱構築的になってきています。

自分で自分の行動をきつちりコントロールでき、主体的・能動的であるべきだ、受け身になるのはよくない、という考え方が世間には強くあるし、ジコケイハツでもよく言われます。だけれど、我々は他者とともに生きている。他者に主導権があり、それに振り回されること⁽¹⁾がしばしばある。そのことがイヤなようでもあり、そこにこそ楽しさがあるようでもある。この両義性が重要です。能動的であればよいというわけではないのです。かといって、受動的になりきつてしまい、他人の言いなりになってしまうのはそれはそれで困ったことです。だから、能動性と受動性についても、どちらがプラスでどちらがマイナスかということ⁽²⁾を単純に決定できないのです。

このように、能動性と受動性が互いを押し合いへし合いしながら、絡み合いながら展開されるグレーションがあつて、そこにこそ人生のリアリティがある。

（千葉雅也『現代思想入門』による。出題の都合上、一部中略・改変した所がある。）

問 1 傍線部(ア)・(エ)の漢字を平仮名にしてください。

(ア) 曖昧 ()

(エ) 一概 ()

問 2 傍線部 (イ)・(ウ)・(オ)のカタカナを漢字にしてください。

(イ) ソボク ()

(ウ) ゲンミツ ()

(オ) ジョケイハツ ()

問 3 傍線部 (1) で記されている「対立」について作者が本文中で使用している意味と合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入してください。

- ① 自由民主主義と権威主義の対立が国際関係を不安定にしている。
- ② 安定した将来を望む親と自由な人生を歩みたい子供が対立した。
- ③ 草野球チームで、どちらがピッチャーをやるかで対立、友人との関係が悪くなった。
- ④ 新車開発で、デザイン重視か性能重視かで社内が対立した。
- ⑤ 休日に映画を鑑賞するかテニスをするかで対立、夫婦喧嘩になった。



問 6 傍線部 (3) で記されている「脱構築的」について作者が本文中で使用している意味と最も合致する適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

- ① 人生のグレーゾーンは大切だが、自律するためにこそ、他者に傷つけられることだけは許容してはいけない。
- ② 人生では受動的にならざるをえない時もあるが、いつかは能動性を取り戻されなければ、自分らしく生きられない、という両義性が重要である。
- ③ 他者に主導権を取られ振り回されるのは辛いですが、楽しい面もあり、ここに人生のリアリティがある。
- ④ 他者とともに生きるためには二項対立を乗り越え、一貫した価値観を構築する必要がある。
- ⑤ 自分を乱す他者こそが、成長の機会をくれるので何より大切にすべきだ。

問7 本文の内容に合致する最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

- ① 人生はプラス／マイナスが見通せない局面の連続である。目の前の欲望に流されることなく、長期的な視野で良し悪しを判断する視点が大切である。
- ② 脱構築とは、物事を二項対立で捉え、良し悪しを言うことを、いったん留保する考え方である。
- ③ 自分の秩序に従わない他者を尊重しながら、常に自分らしい規律を失わずに、グレイゾーンをまつすぐに生き抜く必要がある。
- ④ 世の中は両義的で良し悪しが決められないことが多々ある。だからこそ、法や慣習、社会秩序を大切にしなければいけない。
- ⑤ 秩序こそが現代人を息苦しくしている。逸脱こそが、そこから逃れる唯一の方法であり、暴走こそがすべてである。

点

V 次の1～15の問いに、日本語（いわゆるカタカナ語を含む）もしくはアルファベットで答えなさい。

問1 近い将来、中国を抜いて世界一の人口を抱えることが予想されている国はどこか。

()

問2 1949年に設立され、本部をブリュッセルに置く北大西洋条約に基づく集団防衛組織の英語略称とは何か。

()

問3 ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、ロシア語の読み方からウクライナ語の読み方に変更されたウクライナの首都の名称（ウクライナ語読み）は何か。

()

問4 正式名称を「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」と言い、取引規制を通じて野生生物種の絶滅を防ぐとともに、持続可能な利用も理念に据えた1975年に発効した条約を通称で何条約というか。

()

問5 2015年の国連サミットで採択された2030年までの実現を目指す持続可能な開発のための目標を英語表記で何というか。

()

問6 1919年、国民議会で成立したドイツ共和国憲法で、国民主権、男女平等の普通選挙の承認に加えて、新たに所有権の義務性、生存権の保障などを規定し、近代の民主主義憲法の典型とされる憲法を、その国民議会の開会地にちなんで何というか。

()

問7 スペインのイザベル1世の支援を受けてインドを目指し、1492年に、現在のアメリカ大陸を「発見」した人物は誰か。

()

問 8 1991 年に崩壊したソビエト連邦の最後の最高指導者は誰か。

()

問 9 日本の神話上の初代天皇とされているのは誰か。

()

問 1 0 日本国憲法において、戦争放棄、戦力の非保持、交戦権の否認をしているのは第何条か。

()

問 1 1 1895 年の下関条約によって清朝から割譲された台湾を第二次世界大戦後まで統治した国はどこか。

()

問 1 2 IT 企業の世界的企業の略称である GAFAM の「M」の企業名は何か。

()

問 1 3 宇宙開発企業スペース X の創業者であり、アメリカ電気自動車大手のテスラの共同創設者は誰か。

()

問 1 4 2008 年に世界的株価下落と金融危機を引き起こすきっかけとなった投資銀行の名前は何か。

()

問 1 5 「経済」「政治」「教育」「健康」の 4 つの分野のデータから作成され、0 が完全不平等、1 が完全平等を表す、世界経済フォーラム (World Economic Forum: WEF) が毎年発表している各国における男女格差を測る指数を何というか。

()

点